2026 年 11 月 6 日
日本銀行広島支店

広島県の金融経済月報

１．概況

広島県の景気は、緩やかな回復基調にある。

需要項目別に概観すると、設備投資は増加している。公共投資は緩やかに増加している。輸出は緩やかに回復している。個人消費は緩やかな回復基調にある。住宅投資は下げ止まっている。

生産は緩やかに回復している。雇用・所得環境は緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は２％のプラスとなっている。

先行きは、原油価格やＡＩ関連需要の動向などが、企業の賃金・価格設定行動、個人消費の動向などに及ぼす影響について注視していく必要がある。

２．実体経済

（１）最終需要の動向

個人消費は、緩やかな回復基調にある。

百貨店売上高は、緩やかに回復している。スーパー売上高は、物価上昇の影響を受けつつも、底堅く推移している。コンビニエンスストア売上高は、底堅く推移している。ドラッグストア等の売上高は、底堅く推移している。家電販売は、横ばい圏内の動きとなっている。乗用車販売は、横ばい圏内の動きとなっている。サービス消費は、横ばい圏内の動きとなっている。観光は、横ばい圏内の動きとなっている。

住宅投資は、下げ止まっている。

設備投資は、増加している。

公共投資は、緩やかに増加している。

輸出は、緩やかに回復している。

（２）生産の動向

生産は、緩やかに回復している。

自動車は、緩やかに持ち直している。はん用・生産用・業務用機械は、回復している。電気機械は、増加している。造船は、高操業となっている。鉄鋼は、横ばい圏内で推移している。

（３）雇用・所得の動向

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

（４）物価の動向

消費者物価（除く生鮮食品、広島市）は、２％のプラスとなっている。

３．金融

（１）貸出の動向

県内金融機関の貸出金残高（末残）は、前年を上回っている。貸出金利は、上昇している。

（２）預金の動向

県内金融機関の実質預金残高（末残）は、前年を上回っている。

以　　上

本資料はホームページにも掲載しています。
URL　https://www3.boj.or.jp/hiroshima/
E-mail　hiroshima@boj.or.jp